

季刊せいてん no.115

●浄土真宗聖典の学習誌●

特集

しなやかに つなげる仏事

真宗〈悪人〉伝／熊谷直実 「物語」で読み解く仏教／植物と成仏②
『歎異抄』／第五条 「正信偈」／曇鸞大師① 和讃で学ぶ／信心

NO.115

季刊

せいてん

2016.6.1(夏の号)

特集

しなやかに つなげる仏事

- 「お仏壇を安置しよう」……………編集室 2
「本願寺派のお寺を探す方法—大阪の場合—」ほか…編集室 44

はじめの一步Ⅰ

真宗〈悪人〉伝④

- 熊谷直実……………井上見淳 9

はじめの一步Ⅱ

「物語」で読み解く仏教⑩

- 植物と成仏 その二……………野呂 靖 16

聖典セミナー

- 『歎異抄』⑥ 第五条……………矢田了章 22

せいてん誌上講演

- 「正信偈」⑭ 曇鸞大師(1)大乘仏教の極致……………梯 實圓 30

和讃で学ぶ浄土真宗 ⑥

- 「信心」……………佐々木隆晃 40

ジョード・シンシュー・アイスブレイク ④

- 「みちみちてイグノランス」……………タカシ ミヤジ 54

聖典こぼれ話 ④

- 「和顔軟語？」……………堀 祐彰 55

法語随想 悲しみとともに ②

- 「蟪蛄は春秋を識らず」といふがごとし……………吉村隆真 56

読者のページ せいてん質問箱 ②

- 親鸞聖人の漢文の「読み替え」は文法的に間違っているの?…能美潤史 58

人ひとみな あなたがいてくれるから ②

- 「ジャムおばさん」の歌……………白鳥ちあき 63

お寺はいま 東日本大震災特別編

- 心のケアと震災五年後の現状……………64

西の空 心に響くことば

- 生死……………鈴木章子 67

文中写真／編集室

お読みになる前に…文中に(〇〇頁)とあるのは『註釈版聖典(第二版)』、(七祖〇〇頁)とあるのは『註釈版聖典 七祖篇』のページ数を指しています。

特集

しなやかに つなげる仏事



仏事、それは私たちの日常生活と仏法が交わる大切な機会。ですが、「自分の代まではなんとか続けられるけど……」そんな心配を抱えている方もおられることでしょう。続ける？ もう無理？ それとも……？ 昔ながらの形はもちろんのこと、時代や環境に配慮しながらも、仏事の大切な心を受け継いでいく方法を、ご一緒に考えてみましょう。

特集目次

お仏壇を安置しよう

伝統的なお仏壇……………p3

現代的なお仏壇……………p5

私の部屋のご本尊……………p6

本願寺派のお寺を探す方法

—大阪の場合—……………p44

法要の由来……………p48

み教えに聞くしなやかな仏事……………p50

しなやかな仏事のためのBOOKS……………p53

お仏壇を安置しよう

「仏事」の中心は、文字通り、仏さまです。浄土真宗では、阿弥陀如来と
いう仏さまを礼拝の対象（本尊）と
してご安置し、仏事を行ってきまし
た。このご本尊を家庭でご安置する
のがお仏壇です。

お仏壇は仏事を考える上で欠かす
ことのできないものです。ですが、
「大きなお仏壇は必要なの？」と感じ
ておられる方や、「お仏壇のお世話が
できなくなったからもう処分したい」
と、お仏壇について疑問や悩みをお
持ちの方もあることでしょう。

それならばもういちど、様々な角
度から、柔軟に、お仏壇の意義につ
いて考え直すべきではないでしょう
か？本コーナーでは、仏壇店にお話
をつかがい、伝統的なお仏壇と、家
具調で小型の現代的なお仏壇のそれ
ぞれの良さを考えます。皆様の状況
や生活スタイルに合ったお仏壇を考
えるきっかけになればと思います。

取材協力 京仏具小堀 丸三仏壇店

若林仏具製作所（五十音順）

伝統的なお仏壇と小仏壇は「小さなお寺」

家庭が間法の場に

浄土真宗の伝統的なお仏壇は、金
色に輝く大きなものです。お仏壇が
浄土真宗のご門徒にとって、とても
大切なものであり、生活の中心にあ
ったことが、この立派なお仏壇から
うかがうことができます。

しかしこの伝統的なお仏壇の需要
は年々減ってきているそうです。そ
の理由には、マンションなどの現代
の住宅事情、高価であること、宗教
離れ、さらには、何事も簡略化され
ていくという時代の流れということ
もあるようです。

そもそも、どうして浄土真宗のお
仏壇は、簡略化の対極にあるような、
金色で大きいお仏壇なのでしょう
か。そのことを確認してみましょ

「浄土真宗のお寺は、仏さまの世界
を表した本山のお内陣ないじんを小さくし
たもので、お仏壇は、さらにお寺
のお内陣を小さくした形なんです。
お寺をお家の中に持つてきたとい
う感じですね。それはやはりお寺
が親鸞聖人の教えを聞く場である
ように、お仏壇によってご家庭が
〈間法もんぽうの場〉になるということだ
と思います」

お仏壇はまさに「小さなお寺」
なのです。お仏壇が本山の形式を
踏襲したものであることは、他宗に
は見られない真宗の特徴ということ
でした。ご家庭での報恩講ほうおんこうや法事
は、仏法を聞くための場である、と
いう意識がより強く反映されている
のが、伝統的なお仏壇の特徴なの
だと感じました。



浄土真宗で伝統的に用いられてきた金仏壇

また、お寺のような、おごそかで身が引き締まるような「宗教的空間」を醸成するのにも、存在感の大きい伝統的なお仏壇は、より有効なものであると感じます。日々の生活の中で、仏さまの世界を味わう特別な時間を持つことができる、お仏壇とはそんな意義を持つものなのでしょう。

「形」の大切さ

こんなお話もありました。

「伝統的なお仏壇は、きつちりとしたお飾りができ、きつちりとしたお給仕が身につきます」

お仏壇のお荘厳しょうこん、お仏飯ぶつはんやお仏華ぶつがをお供えするお給仕は、多くの人のとっては大変で、それがマイナスイメージになっているかもしれない。何より手間がかかりますし、「形だけ整えても気持ちが悪ければね」という方もいらっしゃるでしょう。

ただ、お荘厳・お給仕をきつちりとしていくことで、宗教的情操が養われたり、知らず知らずのうちに仏

さまを大切に思う心が育まれていたという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。「形式的」という言葉は、「形ばかりで内容が伴わない」と批判的に用いられますが、実際には、形式から入って徐々に内容が伴っていくということも多いように思います。伝統的に行われてきたものを形通りに行っていくことの大切さを感じました。

先祖代々のお仏壇を引き継ぐために

お仏壇が古くなったような場合、新しいものを購入するのも一つの方法ですが、仏壇の「お洗濯」、つまり、お仏壇の修復という方法もあります。今風に言うと、お仏壇のリフォームですね。

昔のお仏壇には、「処分してしまうのがもったいない」と仏壇店の方に言わせるほど、技術的にも工芸的にもすぐれたものがあるそうです。

ただ、修復は職人さんの手仕事のため、費用は高額になることもあるとのこと。仏壇店さんは、「お客さん目線ではないのかもしれませんが」と前置きしつつ、「良いものは残していただきたい」と仰っていました。

季刊せいてん

バックナンバーのご案内 (在庫分)

100号を記念しての特別号



●表紙写真●燃灯仏授記図
(ベゼククリク千仏洞)

101号の主な内容

☆ビジュアル大乘仏教～北伝仏教の旅～
インド・西域・中国・朝鮮半島・日本編 丘山 新
これまで表紙解説のコーナーでたどった仏教伝来の道を、新たに美しい写真とともに旅しました。インドから日本に伝わった仏教の大きな流れを知ることができます。

☆「入門講座」・「聖典セミナー」プラス
観世音・大勢至一七高僧にちなんで 黒田 覚忍
「私にとっての仏教」その後 浅田 正博
親鸞聖人へのアプローチ 山田 雅教
その心すでにつねに浄土に居す 森田 眞円
『観無量寿経』のころ 徳永 一道
『尊号真像銘文』のころ 白川 晴顕
『一念多念文意』のころ 内藤 知康

今まで「入門講座」「聖典セミナー」をご担当いただいた先生方に、現在の味わいをご執筆いただきました。



表紙写真●ボロブドゥール
(17) (インドネシア)

- 入門講座
はじめて学ぶお釈迦さまのご生涯⑩
(内藤昭文) お釈迦さまの伝道と教え
- 聖典セミナーⅠ
一枚起請文② (高田文英)
「ただ念仏」のころ
- 聖典セミナーⅡ
御俗姓① (佐々木隆晃)
親鸞聖人のご生涯を偲ぶ
- 聖典セミナーⅢ
仏説阿彌陀經④ (満井秀城)
因果段—往生する者の因果

99号(夏の号) 2012年6月1日



表紙写真●ボロブドゥール
(15) (インドネシア)

- 入門講座
はじめて学ぶお釈迦さまのご生涯⑩
(内藤昭文) 成道から初転法輪へ
- 聖典セミナーⅠ
仏説無量寿經⑩ (村上泰順)
流通分一念仏をたくす
- 聖典セミナーⅡ
高僧和讃⑫ (天岸淨圓)
「源空讃」(2)
- 聖典セミナーⅢ
仏説阿彌陀經② (満井秀城)
浄土のうらわしいすがた

97号(冬の号) 2011年12月1日



表紙写真●ボロブドゥール
(18) (インドネシア)

- 入門講座
はじめて学ぶお釈迦さまのご生涯⑩
(内藤昭文) お釈迦さまの晩年とその後
- 聖典セミナーⅠ
一枚起請文③ (高田文英)
浄土真宗の生命
- 聖典セミナーⅡ
御俗姓② (佐々木隆晃)
親鸞聖人の御遺訓
- 聖典セミナーⅢ
仏説阿彌陀經⑤ (満井秀城)
証誠段・流通分

100号(秋の号) 2012年9月1日



表紙写真●ボロブドゥール
(16) (インドネシア)

- 入門講座
はじめて学ぶお釈迦さまのご生涯⑩
(内藤昭文) 中道という仏道
- 聖典セミナーⅠ
一枚起請文① (高田文英)
法然聖人のお誓いのことば
- 聖典セミナーⅡ
高僧和讃⑬ (天岸淨圓)
「結讃」—一七高僧のお勧め
- 聖典セミナーⅢ
仏説阿彌陀經③ (満井秀城)
名義段—仏名のいわれ

98号(春の号) 2012年3月1日

112号(秋の号) 2015年9月1日

- はじめの一步Ⅰ
真宗(悪人)伝①(井上見淳)
「下間蓮崇」
- はじめの一步Ⅱ
「物語」で学ぶ仏教⑦(野呂靖)
「妖怪と仏教 その二」
- 聖典セミナー
「歎異抄」③(矢田了章)
「第二条」
- せいてん誌上講演
「正信偈」⑩(梯實圓)
「龍樹菩薩(2)易行道の生き方」
- 和讃で学ぶ浄土真宗③
「仏の願い(本願)」(佐々木隆晃)



表紙●特集「せいてん流(仏弟子)入門」①より



表紙写真 ●チベット仏教(1)

- はじめの一步Ⅰ
親鸞聖人の人間像①(山田雅教)
「妻がつづった親鸞聖人の素顔」
- はじめの一步Ⅱ
現代人と宗教①(福永俊哉)
「宗教と学問」
- 聖典セミナー
「御文章」①(高田文英)
「聖人一流章」
- せいてん誌上講演
「正信偈」①(梯實圓)
「ご恩に報いるために」
- サンカしよう
「讃仏偈」①(若林義人・山口眞子)

102号(春の号) 2013年3月1日

113号(冬の号) 2015年12月1日

- はじめの一步Ⅰ
真宗(悪人)伝②(井上見淳)
「智洞」(上)
- はじめの一步Ⅱ
「物語」で学ぶ仏教⑧(野呂靖)
「お酒と仏教」
- 聖典セミナー
「歎異抄」④(矢田了章)
「第三条」
- せいてん誌上講演
「正信偈」⑫(梯實圓)
「天親菩薩(1)真実のはたらき」
- 和讃で学ぶ浄土真宗④
「仏のはたらき(他力)」(佐々木隆晃)



表紙●特集「せいてん流(仏弟子)入門」②より



表紙 ●特集「仏教説話」②より

- はじめの一步Ⅰ
戦国時代の本願寺③(金龍静)
「証如上人と本願寺」
- はじめの一步Ⅱ
「物語」で読み解く仏教⑤(野呂靖)
「六道之沙汰」
- 聖典セミナー
「歎異抄」①(矢田了章)
「前序」
- せいてん誌上講演
「正信偈」⑨(梯實圓)
「お念仏の道を伝えた高僧たち」
- 和讃で学ぶ浄土真宗①
「人間のすがた」(佐々木隆晃)

110号(春の号) 2015年3月1日

114号(春の号) 2016年3月1日

- はじめの一步Ⅰ
真宗(悪人)伝③(井上見淳)
「智洞」(下)
- はじめの一步Ⅱ
「物語」で学ぶ仏教⑨(野呂靖)
「植物と成仏 その一」
- 聖典セミナー
「歎異抄」⑤(矢田了章)
「第四条」
- せいてん誌上講演
「正信偈」⑬(梯實圓)
「天親菩薩(2)一心の功德」
- 和讃で学ぶ浄土真宗⑤
「南無阿弥陀仏(名号)」(佐々木隆晃)



表紙●特集「親鸞聖人の筆跡」より



表紙 ●特集「お仏華を知ろう」より

- はじめの一步Ⅰ
戦国時代の本願寺(終)(金龍静)
「証如上人と本願寺」
- はじめの一步Ⅱ
「物語」で読み解く仏教⑥(野呂靖)
「妖怪と仏教」
- 聖典セミナー
「歎異抄」②(矢田了章)
「第一条」
- せいてん誌上講演
「正信偈」⑭(梯實圓)
「龍樹菩薩(1)大乘の巨人」
- 和讃で学ぶ浄土真宗②
「阿弥陀仏」(佐々木隆晃)

111号(夏の号) 2015年6月1日

●これまでの主な特集記事●

- No. 99……**特集**心の依りどころお仏壇
No.100……**100号記念** 勤學和上に聞く
①聖教の真实性と布教伝道について 梯實圓
②聖典編纂事業と「季刊せいてん」
徳永一道・内藤知康・佐々木恵精
No.102……**特集**飛雲閣と聚楽第一聚落第の遺構か否か
No.109・110……**特集** 仏教説話と譬喩に学ぶ①②
No.111……**特集** お仏華を知ろう
No.112・113……**特集** せいてん流「仏弟子」入門①②

*「季刊せいてん」誌のバックナンバーは部数に限りがございますので、品切れの場合はご容赦願います。

お申し込み・お問い合わせは
本願寺出版社

☎0120-464-583
FAX075-341-7753

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル
1冊700円(税・送料込)
商品に払込取扱票を同梱しますので、郵便局もしくは
コンビニエンスストアで料金を払い込みください。

連載 クローズアップ

《せいてん誌上講演》「正信偈」

102号より好評連載中

梯 實圓

本願寺の碩学、故・梯實圓和上による「正信偈」の講演録です。親鸞聖人のみ教えの結晶ともいえる「正信偈」をやさしく講演いただいています。梯和上の聲に接しているような臨場感にぜひふれて下さい。



季刊せいてん 定期購読のご案内

*本誌を毎号入手していただくために定期購読をお勧めします。

●年間購読料 2,800円 (税・送料込み)

▲年4回 (3・6・9・12の各月) 発行

*1部からでもお求めになれます。

●1部 700円 (税・送料込み)

※同じ号を一括して多部数お申し込みいただいた場合には、
部数割引させていただきます。(10部以上10%・50部以上20%)

・お申し込み・お問い合わせは↓・

本願寺出版社  0120-464-583 FAX 075-341-7753
よむよ ごわさん

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル <http://hongwanji-shuppan.com/>

編 集 後 記

◆熊本地震により被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

「法語随想」をご執筆の吉村先生のご自坊も被害を受けられました。先生はお寺と避難所を行き来する大変な状況の中、原稿の校正等をしてくださいました。被災地の皆様が一日も早く穏やかな日常を取り戻されることを願っています。(K)

◆伝統を受け継ぐことと柔軟に対応することのバランスは、何においても重要であり、なおかつ、難しいものです。特に浄土真宗では、今号の仏事特集でお伝えしようとしたことがまさにそうであったように、そのバランスに配慮する場面が多いように思います。いよいよこの秋からはじまる伝灯奉告法要を通じて、このことは繰り返し問われていくことでしょう。(N)

◆「お寺はいま」の取材は、これまで震災支援活動に携わってきた金澤さんの協力によりました。金澤さんは、被災した状況は十人十色で、時間の経過とともに個別の状況の違いが露わになってきたと言います。金澤さんのカフェ・デ・モンクでの「お一人お一人のお気持ちを大切にさせてください」という言葉は、被災地の現状を受けて語られたものでした。(Y)

◆「和讃で学ぶ浄土真宗」は佐々木先生にお味わいを交えて易しく解説いただいています。和語(日本語)で書かれているとはいえ、昔の言葉で書かれた和讃をそのまま理解するのは難しいですね。この連載で和讃に興味を持たれた方は、「三帖和讃(現代語版)」もあわせてご覧ください。皆様の学びの大きな力になると思います。(D)

投稿募集

◆本誌に対するご感想やご意見、聖典講座についてのご質問など、ふるってご投稿ください。皆様からのお便りをお待ちしております。

◆あて先は、「〒600-8349 京都市下京区堺町92番地 浄土真宗本願寺派伝道第3本部 総合研究所 季刊せいてん編集室」とご明記ください。◆お送りいただきました原稿はお返しできません。◆掲載分には記念品をお送りいたします。

季刊せいてん

NO.115 平成28(2016)年6月1日発行

編集

浄土真宗本願寺派

総合研究所

〒600-8349

京都市下京区堺町92番地

発行

本願寺出版社

(浄土真宗本願寺派)

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル

本願寺門前町60番地

電話 075-371-4171

本誌記事の無断転載を禁じます。BD.04SH①60-61